

神話スライドset シリーズ

# 北斗南斗

スライド枚数	: 12枚
時間	: 5分10秒
イラスト	: 三善 和彦
ナレーション	: 寺瀬 今日子

**LIBRA** CORPORATION



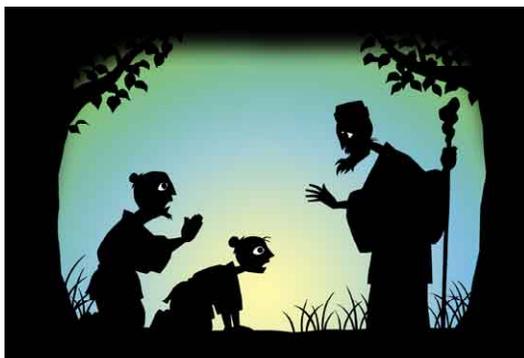
+音始まり

8



1. 昔むかし、中国の「魏」(ぎ)の国に、管輅(かんろ)という名の占いの名人がおりました。

この管輅が田舎道をぶらぶらと歩いていたときのこと、ふと、畑の中で働く少年の顔を見て、「ああ、気の毒なことに。20歳までの寿命もない」とつぶやいたのです。



2. これを聞いた少年はびっくり仰天。なにしろ、占い名人の言うことです。すぐに父親と、管輅の後を追いかけてきて、なんとか寿命がのびるように、頼み込みました。ところが、管輅のいうには「私は、占いはするが、寿命を延ばしたり縮めたりする力はありません。」そこを、なんとか、とさらに頼むと、管輅は、しばらく考えた末に、こう言ったのです。



3. 「それでは、上等の酒を一樽と、上等の肉を用意して、村はずれの桑畑の南端へ、いってみなさい。そこには、大きな桑の木がある。その下で、二人の仙人が、碁を打っているから、黙って、酒と肉をすすめなさい。よいか、決して、話しかけず、ただ、もてなすのだぞ。」

+音変わり



4. 父親と少年が、教えられたとおり、酒と肉を用意して行ってみると、はたして、そこに二人の仙人がいて、一心不乱に暮を打っていました。

南側に座る仙人は、白髪で優しい目をしています。

一方、北側の仙人は、黒い髪で、険しい表情で陰気な感じをしています。



5. そこで、父と少年が、だまって酒と肉を差し出すと、二人は、気にも留めない様子で、暮を打ちながら酒を飲み、肉を食べます。

そんな状態で、何時間もすぎ、ようやく日も暮れようか、というころ、北側にいた仙人が、二人に気がつき、どなりつけました。



6. 「こら、おまえら、こんなところでなにをしている。あっちへ行け！」

すると、南側の仙人が  
「こらこら、あれだけ、飲み食いしておいて、そう文句を言うものじゃあるまい」といって、少年の顔をじっと、見つめたのです。

「お前は・・・趙顔（ちょうがん）だな」



7. 北側の仙人は、ぶつぶつ、「今更、どうにもなるもんか」などと、言っていますが、南側の仙人は「まあ、調べてみよう」と、なにやら帳面を取り出すと「趙顔、趙顔か・・・」と、少年の名前を探し始めたのです。そして、

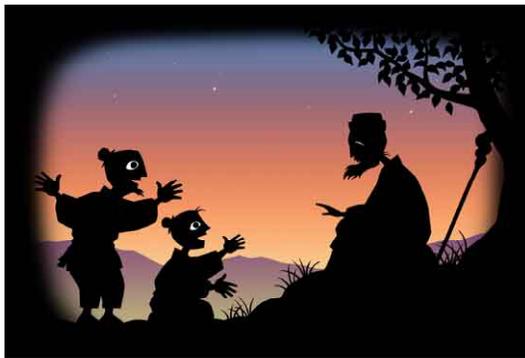


8. 「あ、あったあった、これじゃ。」  
と、" 趙顔、寿命一九歳 " とかいてあるページを見  
つけると、



9. 十と九を逆さにする印を付けてくれたの です。  
「さあ、これで、お前の寿命は九十歳だ」

+音変わり



10. 父と少年は、大喜びで、管輅のところはこのこ  
とを伝えに行きました。  
すると



11. 「それは良かった。  
実はな、南側に座っていたのは " 南斗 " といって、  
長寿の神で、北側にいたのが " 北斗 " といって死に  
神なのだ。  
南斗は南の空にあって、生を司り、北斗は北の空で、  
死をつかさどる。  
どうやら、お前は南斗に気に入られたらしい」  
と、話してくれた、ということです。